

大学生のLINEに関する意識調査

-LINEの利用と大学生生活不安に関する調査-

関西国際大学
田中 希



みなさん利用していますか？

- 携帯電話の普及率は、93.2%
- スマートフォンの普及率は54.7%
- 男女別で見ると・・・男性：53.7%
女性：54.4%



また、女性の10代、20代は80%を超えている！



「LINE」って？



- メールのようなメッセージのやり取りや音声での通話を無料で使うことができるスマートフォンアプリである。
- 端末のアドレス帳からLINEの友達に追加される機能もある。
- インストールしてすぐに利用できる。

人気の高いものとなっている！



なぜ若い人から人気なのか？

(高橋,2000)

ポイント

○ 1つ目

- **友だちとつながるツールである点**
 - 簡単に友だち登録ができる
 - スタンプを使って手軽にやり取りができる

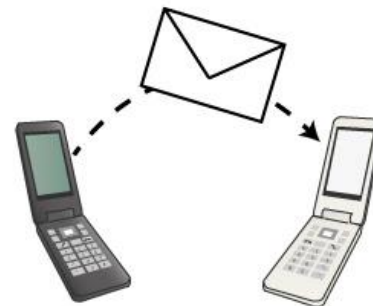
○ 2つ目

- **スマートフォンを利用する人が増加している点**
 - スマホの機能が活かせる





LINEと携帯メールの違い



- 1つ目
 - メッセージのやりとりがチャット形式である

- 2つ目
 - グループトークができる

- 3つ目
 - 「既読」の表示がある



既読の表示について

- 既読があることで・・・

「既読が見つからない」「既読が付いたのに返信がない」



‘脅迫的にとらえて、悩む人がいるのでは？’

=『既読に関する感情』



対人疎外感を感じる

さらに、大学生活不安を感じてしまっている人がいる

可能性もある。



さらに・・・

- 「既読に対する感情」によって、

「メッセージを見てもらいたい」

「早く返信がほしい」

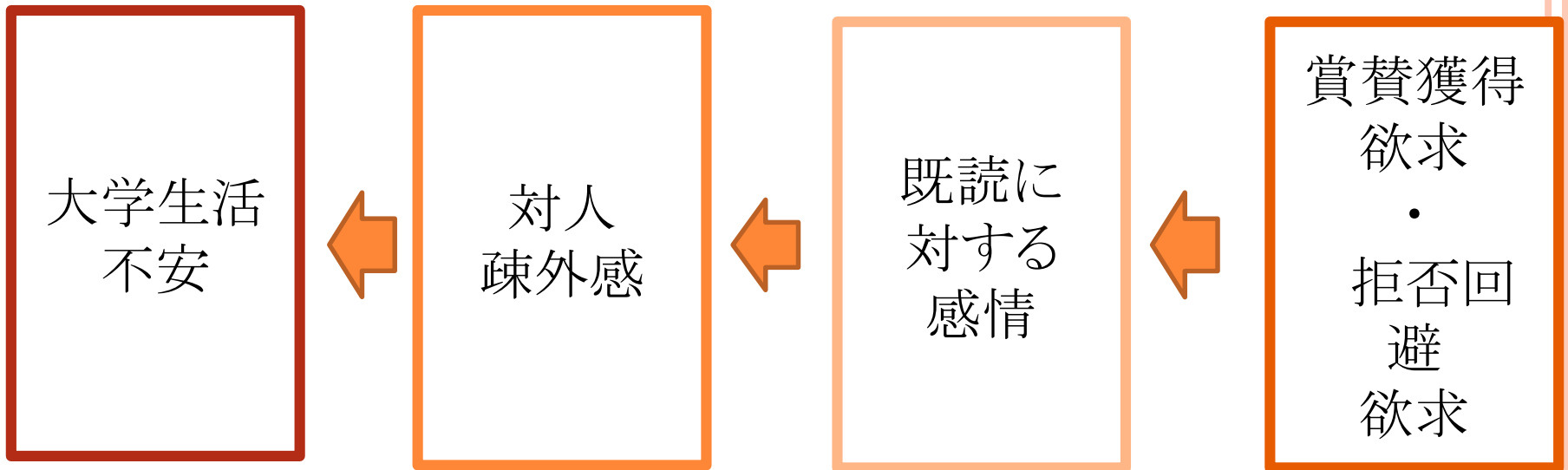
「既読スルーされたくない」 ect....



- 賞賛獲得欲求、拒否回避欲求にも影響があるのでは？



研究目的



上記のことを明らかにすることを検討する



方法

- 対象者：関西国際大学の学生216名（男子学生：213人、女子学生：102人）
- 調査方法：個別自記入形式の質問紙調査
- 質問紙は「あてはまる」「ややあてはまる」「どちらでもない」「ややあてはまらない」「あてはまらない」の5件法で回答を求めた
- LINEの既読機能と返信に関する感情尺度の23項目を独自に作成した。
- 賞賛獲得欲求、対人疎外感、大学生生活不安の尺度に関して既存尺度を使用



因子分析結果

今回の因子分析の結果3因子が抽出された

- 因子名 (信頼性: α 係数)
 - 第1因子: 既読による感情 ($\alpha = .930$)
 - 第2因子: 返信による感情 ($\alpha = .912$)
 - 第3因子: 客観的 ($\alpha = .657$)

→ 各因子ともに十分な信頼性が得られた



表1 項目削除後の因子分析結果(主因子法・プロマックス回転、3因子)

項目	因子			
	1	2	3	
第1因子	既読による感情			
Q12既読がつくと気が楽になる	.975	-.174	.083	
Q2既読がつくと嬉しくなる	.872	-.120	.017	
Q16既読がすぐにつくと安心する	.828	.038	.071	
Q6既読がつくとわくわくする	.784	-.071	-.017	
Q7既読がつくと気分が落ち着く	.762	.004	-.011	
Q22既読がつかないと不安になる	.688	.154	-.074	
Q9既読がつかないと悲しくなる	.605	.259	-.027	
Q21既読がつかないと落ち込む	.556	.264	-.163	
第2因子	返信による感情			
Q10既読がついても返信がないとむっとする	-.234	1.004	.010	
Q8既読がついても返信がないといらいらする	-.083	.872	-.023	
Q18既読スルーされたと思うとひどく腹が立つ	.044	.771	-.059	
Q13既読がつくとすぐに返信が来ると思う	-.044	.713	.042	
Q3既読がついても返信が来ないと悲しい	.338	.538	.073	
Q14既読がついても返信が来ないとむなしくなる	.323	.533	-.018	
Q20既読をつけたらすぐに返信するのは当然だと思う	.125	.532	-.091	
Q1既読がついたのに返信がこないと不安になる	.354	.513	.039	
Q17自分が既読をつけた場合すぐに返信するようにしてい	.047	.513	.218	
第3因子	客観的			
Q11既読がついてすぐに返信がこなくても返信さえくれればいい	.065	.134	.737	
Q23既読がついて相手から返信がない場合であっても落ち着いて返信をまてる	-.056	-.112	.624	
Q15既読がついてもすぐに返信がくるとは思わない	.012	.043	.550	
因子相関行列	因子1	1.000	.714	-.110
	因子2	.714	1.000	-.155
	因子3	-.110	-.115	1.000



関係性(相関係数)

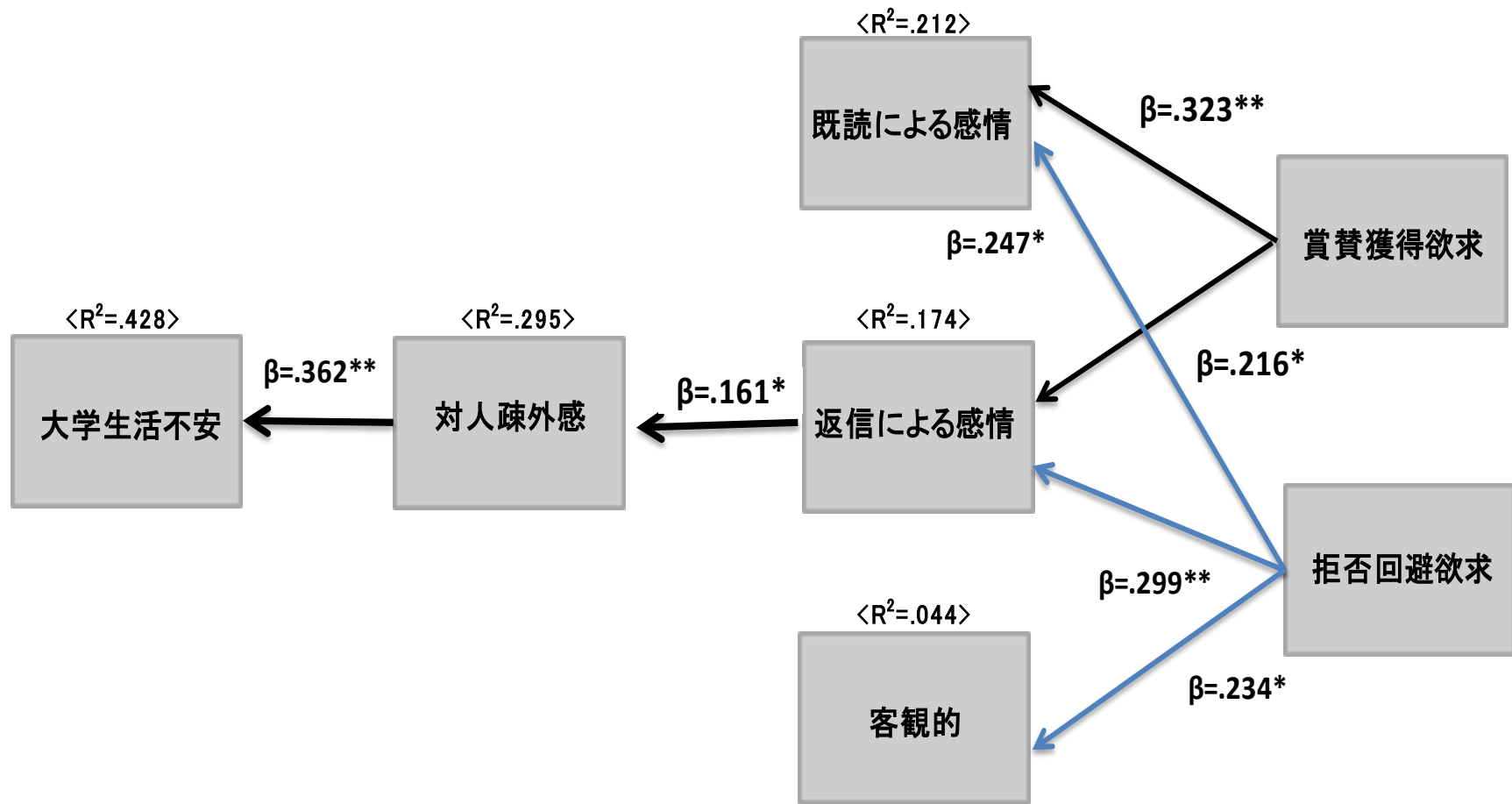
表2 因子分析結果と既存尺度の相関(標本数)

	既読による感情	返信による感情	客観的
拒否回避欲求	.372** (169)	.380** (186)	.154* (177)
賞賛獲得欲求	.400** (186)	.345** (193)	-.091 (182)
対人疎外感	.286** (151)	.320** (157)	-.017 (150)
大学生活不安	.352** (191)	.387** (196)	.082 (188)

注:左は相関係数、右は有効標本数を示す。** $p < .01$ 、* $p < .05$

既読による感情・返信による感情」 → 有意水準1%
客観的 → 有意水準5%
‘強い相関が見られた’





重回帰分析によるパス回析結果
 → それぞれに影響は見られる



考察

- 結果から

返信による感情 → 対人疎外感を高める
対人疎外感 → 大学生活不安を高める

- 返信による感情を抱きやすい人

→ LINEの既読機能の利用の結果として、大学生活不安を抱いてしまう可能性がある。

賞賛獲得欲求と拒否回避欲求は

→ 返信による感情への正の影響がある

- 賞賛獲得欲求
拒否回避欲求 が高い人



大学生活不安を感じてしまうと考えられる



考察

- LINEの既読、返信が賞賛獲得欲求、拒否回避欲求、対人疎外感、大学生生活不安に影響を与えていることが可能性として考えられる。



しかし、数値的には大きいものではなかった

- 理由として・・・

疎外感から大学生生活不安への影響は大きい

→ 他の要因も大きく影響している

(友人関係、アルバイト ect)

- LINEの既読機能や返信も対人疎外感を高め、大学生生活不安に影響を与える一つの要因に過ぎない



今後の課題

- 利用状況を問う質問項目に関して、選択肢の幅を広げ、自由記述形式の項目を増やす
- 調査対象を中学生または高校生して、実施することによって大学生とは異なる結果を得ることができ、比較検討を行い、活用方法や問題の対処に役立てる調査ができるのではないか

